

議事録

内 容	第3回豊橋市まちなか図書館（仮称）実施計画策定懇談会
日 時	平成27年8月29日（土） 午前10時00分～12時00分
場 所	豊橋市中央図書館 3階会議室
出席者	内藤 咲野、白井 琢也、柘植 晶子、鮎川 真世、荒川 雅彦、河合 萌杏、中野 真美子、内浦 有美、木下 博貴、中井 孝幸（アドバイザー）、小川（オブザーバー・中央図書館司書）、事務局（まちなか図書館整備推進室：伊藤室長・加藤主幹・小林主査・三浦、図書館：河合主幹・岩瀬主査）、実施計画策定委託業者

要 旨

アドバイザー	<p>1 先進事例の紹介</p> <p>鳥取県立図書館。今、ビジネス支援で大変有名な図書館であるが、ビジネス支援だけに特化しているわけではない。何がきっかけで有名になったかという、雨が降ったときにシャッターが揺れるので直したいと図書館に相談した方がいたことから始まった。例えば、大型の活字本といって、目の不自由な方が利用するようなものは、大きなものなので持ち運べない。だが、文庫本サイズのものもある。それを市町村が買うというのは大変なことなので、県で買っている。このように、市立図書館と県立図書館の役割分担を考えていろいろな人々をサポートするような仕組みだった。</p> <p>海士町の島まるごと図書館構想。もともと図書館がなかった地域に図書館をつくらうということになった。海士町というのはいろいろな取組をされている。町長がやり手で、例えば岩牡蠣が穫れるのだが、それを運ぶのに、キャス凍結というシステムを町がつくったりしている。また、島前高校というところがある。そこでは島留学ということで、高校生を外から呼び始めた。3年間漁をやりながら生活したり、図書館だけでなくいろいろな取組をされている。また、UI ターンがすごく多い。そのような人たちの声で、図書館をつくっていかないかと。司書の方もIターンの方で、バイタリティのある人達が多いので、そのような人が活躍できる場。</p> <p>島まるごと図書館構想のはじまりは、本がある小学校、中学校、高校の図書室。本があるところに人を配置した。地区の公民館にも本がおいてあるが、一冊しかない。自分で借りた記録を台帳に書いて、返す場所はどこでも良いという大変ゆるい仕組み。そこから中央図書館をつくらうとなったが、大きさが限られているので、保育園と小学校に児童書を置いた。中央図書館には2万冊しか置いていないが、すべてあわせると5万冊。</p> <p>このような図書館サービスのはじまりは、東京都日野市から。図書館戦争は、日野がモデルになっており、図書館の聖地と言われている。ここは移動図書館車から始めて、図書館サービスが根付いてから、中央図書館を開始した。今は、移動図書館車はなくなっているが、お金がないので分散型より集中型になっている。海士町は、また分散型に戻っている。島という特殊性かもしれないが、大変自由でユニークな活動。また、2015年度から男子寮にも置くようになった。県立高校なのに町民が使えるものとして、町がつくっている。町営の県立高校男子寮。あまマーレでは、小さい頃から本を読ませる、読書に対して図書館がサポートをし続けているが、効果が出るのは10年後とかかな。100冊以上学生が年間で読んでおり、中学生も100冊を越えている。</p>
--------	---

2. 意見交換

各ゾーンのサービスや機能について

1) ウェルカムゾーン、アクティブゾーン

- | | |
|----|--|
| 委員 | <p>・既存の図書館は機械的なイメージがある。それでは今までと同じで、興味のある人しか行かない。そうではなくて、ディズニーのキャラクターのようなものや、水族館のような回廊があったり、図書館に入った時に明るくなるといった変化があるなど、動的なものがあるとよい。</p> <p>・アクティブゾーンは、少し劇場っぽい回廊のような形で、ショッピングモールの吹き抜けのようなイメージ。大道芸のように座って見れるようなもの。例えば、カルミアに、ABCクッキングがあるが、ガラス張りの空間で料理をしている様子が見れる。若い人が料理をしているのを見るのは楽しいなと思ったが、誰かが何かをやっているのが見えるような仕組みはいい。見えるのに聞こえない等の工夫が必要か。ドライブインシアターのように、スクリーンが降りてきて、スロータウン映画祭をやったり。</p> |
| 委員 | <p>・PLAT で劇場の公演情報を流しているのを見たが、そういうことを図書館でやってもいいんじゃないか。</p> |
| 委員 | <p>・使う人が使いやすいもの。iPhone でも siri (※声による検索) があるが、そういう検索システムがあったらいいのかな。人じゃなくてもロボットが案内してくれたりとか。5年経つと最新技術が進んでいると思うので、利用者にわかりやすいように。</p> |
| 委員 | <p>・人件費が大変そうですが、コンシェルジュ。前に発言させてもらったのですが、沖縄の観光案内の例のように、図書館ならではの歴史案内があるとよい。</p> |
| 委員 | <p>・観光案内所もそうだし、図書館の司書の相談コーナーでも意外と声がかげづらいので、声をかけやすいような、うまく誘導してあげるような仕組みがあればいいのかな。情報を隣に流しておき、それで話しやすいキッカケになる。</p> <p>大清水図書館のエントランスを見たら、雑誌コーナーが外にあり、良いなと思った。夕方から夜までいたが、遅くなればなるほど雑誌コーナーが混んできた。仕事終わりの人が雑誌だけ読みにきたりしているようだ。</p> |
| 委員 | <p>・学校の図書館だと地域の本を面出ししがちだが、それは手に取らない。もっと今風なものがあったらいいのかな。ファッション雑誌や、時代にあったものだったり。豊橋や、まちの流行が分かったら面白いのかなと。</p> |
| 委員 | <p>・のんほいパークの情報などポスターがあったらいいな。モニターでも良いので、座りながら見れるのがいいな。今借りられているランキングが見えたりとか。可愛いブックマーカーとか買うと本を読みたくなる。</p> |
| 委員 | <p>・玄関というのは全く外であり、入るときに心構えがいる。でもウェルカムゾーンは、そこの敷居を下げるべき。興味を惹かせる空間として、情報をたくさんあげる。もう少しゆるやかに外と繋がる空間とすると、僕の表現は違うのかもしれないが、ホテルのロビーのような場所。ウェルカムゾーンの中にも動と静がある。静の部分にはソファなどあって落ち着ける空間。動の部分は、まちのイベントもできるし、音楽もできるかもしれない。敷居を下げるための仕組みは必要。規模がどれくらいか想定ができないが、外とウェルカムはゆるやかに、ウェルカムとアクティブゾーンの間にコンシェルジュがいたらいいかな。滞在はして欲しい。</p> |
| 委員 | <p>・コンビニの立ち読みのような感覚で読めるような場所。新刊図書は気付くと予約がたくさんで、なかなか借りられないことがあるので、入れてから1ヶ月くらいしてから貸し出せるような仕組みを。予約ボックスがあってもよい。</p> |
| 委員 | <p>・前に道の駅に行った時、周辺のマップがあって、その近くには特産品が置いてあった。小さい子でも楽しんでいたがああいうのは良いなと思った。私は、お金を本に使ってしまって、他のものに使ったことがないが、可愛いと思うものが置いてあると良いなと思う。</p> |

委員	<p>・プロジェクションマッピング。子どもたちが食い付くようなエンターテイメント性のある空間にしたら、それを見に行こうという流れになるかなど。アクティブゾーンでは、豊橋筆を作る体験コーナーがあったらいいなど。そういったところでもつくれたら、観光客の人も、筆づくりをきっかけに、書の大会や、展覧会が開けたら図書館にもあっているかなど。</p>
委員	<p>・いろんな企画があると思うので、各空間の仕切りは移動しやすいようなものがよい。 ・イベントによって違うと思う。私はインドア派なので一概にはこれが良いとは言えない。どういう形態でやるのか、イメージができない。</p>
委員	<p>・本の内容は、ビジュアルがしっかりしているものがあつたほうがよい。難しいものではなく雑誌のように気軽に読めるもの。</p>
委員	<p>・写真が多いものがよい。新聞も地元のものならいいのでは</p>
委員	<p>・新聞をおくと、朝早くから年配の方が居座っていて近づきづらいイメージがある。</p>
委員	<p>・若い人はタブレットがあるので新聞を読まない。新聞を読むことには良さがある。若い人たちが読む仕掛け、豊橋の若い人たちが新聞を読める空間。置くこと自体は悪いことではない。愛知大学で、新聞の記者がやるようなことをしている。そういう三遠南信のネットワークを活用。</p>
委員	<p>・田原図書館の絵本が並んでいるエントランスが好き。司書さんの選書の力だろうけど、たまらなく良い。鎌倉の話題の図書館もあるが、エントランスに入るだけで元気になるような、基本的なことでお金もかからないことが、大事なことかなど。</p>
委員	<p>・最近すごく思うのは、ホテル・アークリッシュを借りたりして、イベントをやりたい人が多い。アクティブゾーンのほうは、地元の人達の使い勝手の良い、何かやりたい人がやれるような場所になったらよい。</p>
委員	<p>・豊橋に足りないものは楽しい場所であり、それが欲しい。以前テレビで手筒花火を取り上げてくれたとき、すごく嬉しかった。例えば、それにちなんで手筒パフェがあれば食べてみたい。</p>
委員	<p>・都会的でも、田舎でもないのが豊橋。場所によっておしゃれな場所と、地域性のある場所があるとよいと思う。</p>
委員	<p>・豊橋もおしゃれなんだよ、というアピールはしたい。ほどほどのおしゃれ感。</p>
委員	<p>・モーニングマップがあつたらいい。ここのモーニングはこんな感じ、とか。</p>
オブザーバー	<p>・図書館は蓄積も仕事。まちなか図書館には、新しい、鮮度のある情報が必要。ただ、中央図書館は施設的に30年前にできたものなので、ハード的にも厳しい。挑戦してほしいと思う反面、短期スパンではなく、長期スパンで考えてほしい。</p>
アドバイザー	<p>・これまで話を聞いていて、外の人じゃなくて、市民の方が豊橋のことを知らないのかなど。新しい人もいるし、地元の人もあるし。自分たちも豊橋のことを分かっていることの表れかなと感じた。それを見えるように、それが分かるようにしてほしいというのが大きい。</p> <p>図書館というのは、本を借りるところと思っている人が多い。だからデジタル化したら無くなるんでしょと。図書館というのは、行った時に本が無ければ他の図書館等で探してくれる。その便利さを一度知ってしまうとやめられなくなるんだけど、それが知られていないので、まず図書館に来て、ということから始めないといけない。そのためのウェルカムゾーン。</p> <p>鳥取県立図書館の職員はプロではないが、詳しく知っている人を知っている。図書館でそういう繋がりができたら良い。またチラシがすごい。離婚など様々な相談の内容に応じたことが書いてある。しかし、チラシはなかなか見ない。情報への触れ方として、映像はあるだろうなと思っている。あとは、目の前に伝えたい事を突き出してくれないと（人の進行方向に対して平行ではなく、垂直に横から情報を見せないと）目に入らない。また、離れてみないと見えないので。情報とどう出会わせるか。</p>

ウェルカムゾーンとアクティブゾーンは、境界があるのかないのか分からないが、そういうのにこだわらなくてもよいんじゃないかなと。アクティブゾーンの箱が並んでいて、それがガラス張りだったり。例えば山梨県立図書館は、ガラス張りで防音になっている。風景が見えるようなもの、それがウェルカムゾーンから見えるようなものでもいいかなと思う。

新聞は地域資料として必要だと思う。また、新聞と雑誌は別で考えるべき。

図書館は通常利用者同士の交流が起きない場所なので、人や活動と出会わせたい。

2) グローアップゾーン

委員 ・図書館＝喋ってはいけないところ、というイメージがある。人の声を聞いて安心できるということもある。知らない人と出会えるような掲示板があったらいい。自分の同世代に勧められたら読みたくなる。

委員 ・図書館は漫画等は置いてない。漫画は受付の後ろ側に置いてあってとられないようにして、はだしのゲン等、昔の漫画でも勉強になることはある。悩みの解決という点では、知らない人に話して解決することもある。ただ、悪口のようにになってしまう場合がある。

オブザーバー ・現在のティーンズコーナーは、司書が中高生の実際の悩みについて意見を出し合っ
て、テーマとしてまとめている。難しいものだけではなくて、笑いたいときもあるだろ
うから、そういうのを考えながら中高生が何を求めているか考えながら選書してい
る。

委員 ・ティーンズコーナーとそれ以外のコーナーのボリュームが図書館によって異なる。
中高生の時は行ってない。子供の時は紙芝居をよく見ていた。それから空白の時間
が流れて今に至る。継続的に足を運べるような仕掛けが必要。中学生、高校生は数学
の攻略本を置いたりする。学校の授業の補助ができるようなものや、朝の読書時間を
図書館で行うとか。一般図書とティーンズコーナーはなぜ分かれているのか。

オブザーバー ・ティーンズコーナーは、隠れ家的な演出もある。

委員 ・本がありすぎて、何を手にとっていいのか分からない。今、おすすめしてくれる自
販機があるが、そういうのがコンバージョンであったら。デジタルでもいいし、対面
でも良いと思う。人から教えてもらおうと読んでみようかなと思う。おせっかい的なサ
ービスがあったほうが良い。

委員 ・大学の図書館は、工学系の本など専門書が置いてあり、大学の図書館で基本的に足
りている。逆に普通の図書館は少なかった。

委員 ・高校生と大学生って好みが違うなと思う。駅前を歩いているのは女子高生ばかり。
大学に入ると劇的に何か変化するのだろう。

委員 ・豊橋駅前には勉強する場所がない。居場所がないので豊橋の外に逃げてしまう。テス
ト勉強という名目で高校ごとで情報交換をしているのではないかと。ただ、外でやって
しまっている。

委員 ・大学のオープンキャンパスに行ったが、それは体験に行った人しか見えないので、
出前で見えるところでやってくれたら面白いかなと思う。視聴覚センターでも面白い
ことはやっているが、選択肢が増えるので、まちなかでやってくれると良いなと思う。

オブザーバー ・中高生は勉強と部活が忙しい。そこから図書館に行くという習慣がなくなってしまう。
有益な情報を取りに来ていただけるように、過ごしやすいような空間をつかって、
きてもらう習慣をつける。学生の居場所がないという話があったが、武蔵野プレイス
はそういったコンセプトでやっていた。

アドバイザー ・ヤングアダルトという分類がない図書館もある。最初は児童図書の隣に置いていた。
けれど、小学生の高学年が使ってしまう。どちらかといえば、もう少し大人の方、児

委員

童から離れたほうが良いなと思う。例えば、おすすめ本のセット。最近書店がやっているが、店主が選んだ本を箱詰めしてくれるサービスがある。そういったものもいいかなと。ヤングアダルトコーナーは、要は学習室。図書館に学習室があるが、そこだけがものすごく学生が多くなっている。塩尻のえんぱーくは、外の廊下とか、ガラス張りの会議室を学習室として開放したりしている。武蔵野プレイスもいろんなものがある。フードコートみたいになっていて、ティーンズ、高校生しかいない。僕は個人的にはそれはどうかなと思う。

今まで使ってなかった層に対してのアプローチや、悩み相談、学習の貧困は問題になっている。図書館がサポートするのかどうか。大学生がボランティアで高校生に教えてくれるティーチングアシスタントのような仕組み。学生が来ない時は卒論をやっていたり、いろんな相談業務をやっていたり。

・いつ行ってもなくならないのが「場」なので、続けることが大切。

3. 次回の予定について

日時：9月19日（土）10時～12時

場所：豊橋市職員会館 302会議室（豊橋市八町通2丁目16番地）

内容：施設全体のイメージ（動線、各ゾーンのつながり等）

第1回～3回までの意見交換の補足など（予定）